

## 第4回 運営会議 議事録

日時：平成21年12月15日

場所：大阪府庁別館8階（西側）

共用会議室

出席委員（敬称省略）

増田 昇（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）

澤木 昌典（大阪大学大学院工学研究科 教授）

下村 泰彦（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授）

嘉名 光市（大阪市立大学大学院工学研究科 准教授）

清野 博子（元読売新聞編集委員）

弘本 由香里（大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）客員研究員）

吉野 勝（泉佐野観光ボランティア協会）

西台 幸子（うみべの森を育てる会）

おもな意見

議案1：ハード整備について

<駐車場周辺設計>

- ・ 砕石舗装は、石を敷き固めた程度であれば、交通量があるのでもう少し強度が必要。
- ・ 公園内の園路はすべてがバリアフリー対応である必要はない。遠回りになるが寄り付きができるとか介助者がいれば入っていける等にしておくことが必要。サイン計画を行い、来園者に利用方法や勾配の情報を伝えていくことも必要。
- ・ 棚田の作物については、ひとりあたり30㎡くらいが限度。来年のパーククラブのメンバーは21名であるから、田を1枚か2枚くらいしか管理できない。その他は行政が管理することになる。その後、パーククラブが増えてくれば、管理する田が増えてくるというプログラムが必要になってくる。
- ・ 他の地域では、土木的な耕地整理によって、不自然な風景が創り出されている場所もあるため、ディテールまで表現していくことが重要。
- ・ 棚田に水路を引くのであれば、ボックスにクレーチングというよりは、もう少し小川的な要素が必要。
- ・ 棚田に水を引くかどうかもお考えをおかないといけない。水田工作を意図するのか、畑作を意図するのかをお考えをおかなければならない。
- ・ やはりサイン計画が必要。この棚田は誰が管理しているのかなどの情報を明示していくことが今後必要。
- ・ 「棚田園地」と書くと棚田ができると勘違いする。「棚田風」とか表現の仕方を検討する

ことが必要。

- ・水田だけでなく、畑であっても耕作してから3年くらいかかると言われている。初期の段階では1枚や2枚は自由に設定できるようにしておくことが必要。
- ・この公園は使うしくみが従来の公園と違う。装置的仕組みとマネージメント的仕組みが必要になってくる。
- ・他の公園でも棚田の再生を行っているが、なかなかうまく棚田の風景を再現できていない。ディテールやスケールを大事にしないといけない。
- ・ハードとソフトを切り離して考えるのではなく、一体的な風景の創造を目指してほしい。

#### <休憩所設計>

- ・休憩所と見ればB案のほうがよいと思う。施設と周りとの関係が重要ではないかと思う。
- ・イベントをしていると倉庫があればあるほどよいと感じる。そういうことで見てもB案がよい。
- ・稼動間仕切りは基本開いていることのであれば、板の間が風雨で痛んでしまうので、軒は多めに出しておく必要がある。
- ・次回のパークレンジャー設立準備会では整備について意見をうかがう機会を設けている。パークレンジャーの意見を踏まえた上で、もう一度運営会議で議論しなければならない。
- ・現在休憩スペースは北向きとなっている。図面を見る限り、北向きより南向きの方が空間が開けていてよい。
- ・B案の屋根が特徴的である。シンボル性を持たせるのであれば、このままでもよいが、東屋などにデザインをそろえることが必要。
- ・休憩施設には北側からのアプローチが多くなり、トイレがまず目に入る。ここのトイレはトイレっぽくないデザインが必要ではないか。
- ・公園のデザインコードを決めておかないといけない。そうでないと年度ごとに異なるデザインが出てくることになる。

#### 議案2：パーククラブについて

##### <公園PRイベントの開催について>

- ・イベントの関わり方は案1が理想である。ただ、パークレンジャーの自己主張がなければ案2でもよい。一度、パークレンジャーに問いかけることが重要。
- ・このイベントはどの年齢層をターゲットとしているのかを明確にしたほうがよい。大人であれば自然散策、資源調査。子どもであれば、まとまった空間でクラフト体験、遊びなどが考えられる。
- ・このイベントをきっかけにパークレンジャーが公益性、公平性を考える場としていければよい。

- ・パークレンジャーの実践の場とするのであれば、もっとベーシックな内容（公園内を歩く等）でもよい。
- ・準備が重要。特に広報は事務局側で準備しておくことが必要。
- ・一般来園者を広く集めて公園のことを知っていただくというより、府民参画型の公園であるということを知ってもらうことに焦点を絞ったほうがよい。
- ・私たちは準備会の中で活動団体の名称をつけた。そういう取り組みをこの公園でもしてもよいのではないか。
- ・5月のイベントで準備期間があまりないので、大掛かりなイベントではなく、小さなイベントでもよいような気がする。
- ・どこに広報すべきかを検討しないといけない。府下全域で広報するのか、それとも泉佐野で広報するのかがある。まずは近辺の方を対象としてもよいのではないか。
- ・「PR イベント」というよりかは「プレイベント」、「限定公開イベント」のようなものとし、プレミア感を出すほうがよいのではないか。
- ・まずは参画型の公園をいかに知ってもらうかが重要。広く一般来園者ではなく、次回以降パークレンジャーとなってくれそうな方を対象にしていく方で考えたい。
- ・このイベントは、パークレンジャーの訓練的取り組みだけではなく、大阪府としても新たな公園づくりの取り組みであり、管理者としての訓練的取り組みでもある。大阪府も管理者としてどういうことに取り組んでいかなければならないかを考えてほしい。
- ・目的限定型のイベントには、体験に絞ったものもあれば、支援いただいている企業のご家族に公園のことを知っていただけるようなものもある。企業から支援いただいている、公園から何も返せないことにならないようにしたい。そのことを踏まえてイベントを考えていくことが必要。